

宮柁二記念館だより

2019.12.20

第 51 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



令和元年11月 全国短歌大会表彰式

「全国短歌大会」をたどって

この夏もゲリラ豪雨、台風と列島は災害に見舞われました。被災された皆様へのお見舞いと一日も早い復興を魚沼からお祈りいたします。

さて、当館全国短歌大会は今年で二十五回を迎えることになりました。

この節目の年にこれまでを振り返り、企画展のテーマを「宮柁二記念館、平成のあゆみ」とし、短歌大会で選者をお務めいただいた歌人が大会に寄せた歌を中心に関連資料を展示しています。

資料を追うと、回を重ねるごとに応募作品が増えてきていること、とりわけ小・中・高校生の伸びが目を引き、近年は応募数の増と共に東北から九州、海外にまで及ぶなど名実共に「全国」の名に恥じないまでに成長してきています。

この間の関係各位のご努力と応募いただいた皆様から御礼を申し上げます。

展示スペースを考え、今回の企画展では前半（一〜十二回）を十月末まで、後半（十三〜二十四回）については十一月から紹介することとしております。

このほか、開館当日、平成四年十一月二十三日に出席いただいたコスモス歌人が「開館を祝う会」において詠まれた歌やスナップなど当時を彷彿させる資料も初めて紹介させていただきました。

伝統ある「堀之内十五夜まつり」の民謡流しでは、今年も宮柁二作詞「堀之内小唄」にあわせ、大勢の皆さんが本町通に繰り出し、まつりの締めを飾りました。

皆さまのますますのご発展をお祈り申し上げます。

「宮柵二」記念館、平成のあゆみ」展

短歌大会を中心として

平成四年に開館した宮柵二記念館は、まさに「平成」とともに歩んできました。今回の企画展ではメイン事業である「全国短歌大会」に焦点をあて、記念館のあゆみを振り返ることとし、これまで選者をお務めいただいた歌人が、大会に寄せた歌のほか、開館当日に詠まれた歌や写真などを紹介します。

第一回短歌大会

第三回短歌大会の頃

堀之内町制七十周年記念事業の一 つとして、平成七年に第一回宮柵二記念館短歌大会が実施され、十一月には堀之内公民館で表彰式を開催しました。第一回の選者は馬場あき子氏(かりん)、中山礼治氏(コスモス)、高野公彦氏(コスモス)が務められました。このときの応募数は一般の部が二、六四四首、ジュニアの部が三一二首でした。

第二回の応募数は一般の部が一、六一二首、ジュニアの部が三三三首

と、この頃の短歌大会では、ジュニアよりも一般からの応募がたくさん寄せられていました。

第三回は二月の雪中花水祝の時期に合わせて表彰式を開催しました。第三回の応募数は一般の部一、一三二、ジュニアの部六五三首となり、ジュニアの部の応募が増え始めました。

第四回短歌大会

第六回短歌大会の頃

第四回はジュニアの部の応募数が一、〇〇〇首を超えて、学校での短



オープニングセレモニーの様子

歌指導の取り組みも増えてきたように感じられました。この時の選者は、奥村晃作氏(コスモス)、武田弘之氏(コスモス)、河野裕子氏(塔)が務められました。

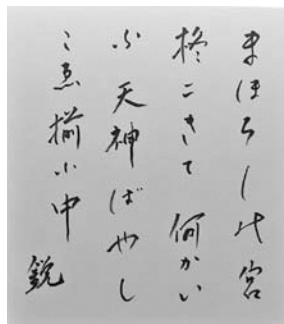
平成十二年四月には宮柵二記念館に、第三代館長として平澤憲一氏が就任し、記念館内での短歌教室もこの頃始まりました。短歌教室の添削講師は、岡崎康行先生が当時から現在に至るまで務めていただいております。

展示資料から

コスモス歌人の直筆色紙

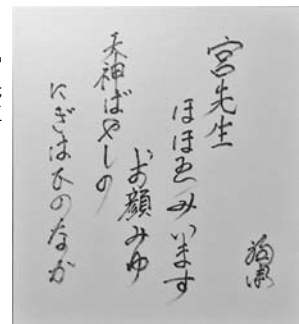
第一展示室中央のショーケースには、記念館開館の際にコスモス歌人たちが寄せた直筆色紙が展示されています。コスモス歌人が宮柵二とその記念館への想いを綴った短歌です。

まほろしの宮
柵二きて 何かい
ふ天神ばやし
こそ揃ふ中



田谷 鋭 氏

宮先生
ほほ愛みます
お顔みゆ
天神ばやしの
にぎはひのなか



関口福衛 氏

第七回短歌大会

第九回短歌大会の頃

第十回短歌大会

第十二回短歌大会の頃

終二没後十五周年記念として開催した第七回短歌大会は選者に岡野弘彦氏(心の花)、宮英子氏(コスモス)をお迎えし開催しました。

この頃、記念館は創立十周年を迎え十周年記念事業として、歌碑の建立がされました。

第十一回短歌大会からは、表彰式の舞台を小出郷文化会館に移し開催しました。この時の選者は雨宮雅子氏(雅歌)と狩野一男氏(コスモス)のお二人が務められました。応募歌数は一般の部一、一六七、ジュニアの部が六、七五二首で合計の応募歌

は七、九一九首となりました。第十二回短歌大会は、終二没後二十周年にあたり「全国」の冠を付して宮終二記念館全国短歌大会と改称されました。

その後、テレビ等で短歌が取り上げられる機会が増え、短歌ブームの中でジュニアの部の応募はさらに増えていきます。

歴代選者から寄せられた短歌

～直筆色紙を記念館に展示しています～

●選者から寄せられた短歌 ※抜粋

【第1回短歌大会】

薔薇の色蜜蜂のために明るしと夕やみにきけば幸ひふかし
かしの幹をうすく広がり絶えまなく伝はる水は重し思想より
母亡くて石臼ひくくうたひをりとうほろほほうとうほろほい

馬場あき子
中山 礼治
高野 公彦

【第2回短歌大会】

過去となる二十世紀に臨界の核犠牲者があをくともれり

柏崎 驍二

【第4回短歌大会】

色々の工夫の花火見たけれど打上げ花火はまん丸がいい
魚野川流るる水の遠霞み空へつづけり亡き師よいづこ

奥村 晃作
武田 弘之

【第5回短歌大会】

しゆわしゆわと馬が尾を振るうまとして在る寂しさに耐ふる如くに

杜澤光一郎

【第7回短歌大会】

会ふといふ愛しきものを草にあふ書に会ふまして人にしあふは

宮 英子

【第9回短歌大会】

あした降る雪のごとくにたましひの精霊蜻蛉さらさらと舞ふ

影山 一男

【第11回短歌大会】

髪梳けるちからこもりてひたふるに春のうしほをひきしほるなり

雨宮 雅子

【第12回全国短歌大会】

しろたへの大き牡丹に面を埋む一生なかばの袂のごとく

森重香代子

オープニングセレモニーより



記念講演中の岡崎康行先生

短歌大会と私

五月二十五日に、「宮終二記念館、平成のあゆみ」展のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、歌人の岡崎康行先生から「短歌大会と私」と題し、記念講演をしていただきました。

岡崎先生からは、短歌大会を通じて知り合った台湾の方との交流などのお話を紹介いただきました。

「宮終二記念館、平成のあゆみ」展は、十一月に展示替えをして、令和二年三月末まで開催する予定です。まだご覧いただいていない方は、ぜひお立ち寄りください。

第二十五回宮柙二記念館全国短歌大会

今年も応募総数は二万千首を超えました

今回で二十五回となる短歌大会は十一月十六日に表彰式を行いました。応募状況は、一般の部で九五四首、ジュニアの部で、一万首を超える応募をいただきました。

例年どおり、県内外の各学校から熱心にご指導いただき、ジュニアの

部についても多数の応募をいただきました。

選歌をお願いしました坂井修一先生と小島ゆかり先生には大変な難儀をおかけいたしました。ジュニアの部を中心に作品数が多くなり、若い感性の良い作品が増えていることと期待しています。

また、一般の部も九〇〇首を超える応募をいただきました。次年度以降につきましても、奮ってご応募くださるようお願いいたします。

なお、今回は新潟県で開催された国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の応援事業として開催しました。県内の文化イベントを盛り上げる一助となったと思います。

短歌大会 応募状況

区分	応募作品数
一般の部	954首
ジュニアの部	10,416首
(小学生)	2,090首
(中学生)	4,108首
(高校生)	4,218首
総計	11,370首

●第二十五回短歌大会一般の部 上位入賞作品

〔一般の部〕

最優秀賞

雪国の駅の立ち食い一本のうどん吸う子の頬の赤さよ

近藤 千壽

選者賞(坂井修一選)

飛べずともサギサウつばさひろぐるをAIたちはきつと知らない

白井 均

選者賞(小島ゆかり選)

ハーモニカの音欠けしファの音の黴の匂ひも遺品となりぬ

山崎とし子

短歌大会 選者ご紹介

こじま 小島ゆかり さん

1956年、愛知県名古屋市生まれ。早稲田大学在学中に作歌を始める。1978年「コスモス」入会(現在、選者・編集委員)。同人誌「栈橋」にて奥村晃作さん、高野公彦さんらに学び、さらに同人誌「COCOON(コクーン)」にて後輩の若い歌人たちから刺激を受ける。

産経歌壇、中日歌壇選者、短歌甲子園(全国高校生短歌大会)特別審査員、高校生万葉短歌バトル判者など。歌集に『希望』(若山牧水賞)、『憂春』(迢空賞)、『泥と青葉』(斎藤茂吉短歌文学賞)、『馬上』(芸術選奨文部科学大臣賞)、『六六魚』(詩歌文学館賞)など。

歌書に『和歌で楽しむ源氏物語』など。

2017年秋、紫綬褒章。



さかい しゅういち 坂井修一 さん

1958年、愛媛県松山市生まれ。1978年、「かりん」入会と同時に作歌開始。現在、「かりん」編集人。現代歌人協会理事。NHK学園「短歌友の会」選者。

歌集『ラビュリントスの日々』(現代歌人協会賞)、『ジャックの種子』(寺山修司短歌賞)、『アメリカ』(若山牧水賞)、『望楼の春』(迢空賞)、『亀のピカソ』(小野市詩歌文学賞)、『古酒騒乱』など11冊。歌書『斎藤茂吉から塚本邦雄へ』(日本歌人クラブ評論賞)、『ここからはじめる短歌入門』など。

東大卒。工学博士。現在、東京大学情報理工学系研究科教授。著書『知っておきたい情報社会の安全知識』、『ITが守る、ITを守る—天災・人災と情報技術—』など。



令和元年度 前期事業

年度の前半が終わって秋の深まるなか、今年度これまでの事業を振り返ってみました。その一部をご紹介します。

堀之内小学校社会科見学来館



6月19日、今年も魚沼市立堀之内小学校3年生の児童が社会科見学のために来館しました。

小島館長が宮柵二や記念館について、パソコンを使って解説しました。子ども達からは故郷の先輩についての様々な質問が飛び交っていました。

山本勝三郎遺作展



6月29日～8月18日、当館エントランスを利用して山本勝三郎遺作展を開催しました。魚沼絵手紙倶楽部などで活躍された故・山本勝三郎さんの絵手紙などの作品を展示しました。

独特の味わいのある作品の数々で、大勢の方から鑑賞いただきました。

宮柵二講座講演会



7月21日、当館運営委員でもある田宮朋子先生をお迎えし『『小紺珠』をめぐって』と題して講演をしていただきました。短歌大会入選者の台湾の方との話を交えながら終戦の頃の『小紺珠』をめぐり様々な話をさせていただきました。

市内小中高校短歌教室出前講座



市内の堀之内小学校（8月30日、9月2日）、堀之内中学校（7月18日）、小出高校（7月22日、24日）で短歌教室出前講座を開催しました。小中学校は記念館で開催している短歌教室の教室生より講師として協力いただき、子ども達に短歌の作り方を教えていました。また、小出高校の出前講座は、昨年に引き続き歌人の田宮朋子先生から講師を務めていただきました。

ジュニア短歌教室



8月20日、ジュニア短歌教室を開催しました。

今年も記念館を飛び出して守門公民館で開催しました。夏休みの宿題や自由研究の課題として、短歌作りに親んでいただきました。子ども達が作った短歌の中には、大人顔負けの力作や子どもの感性をいかしたほのぼのとした作品も見受けられました。そして、参加者から短歌大会の入賞者も出ています。

坂西徹朗版画展

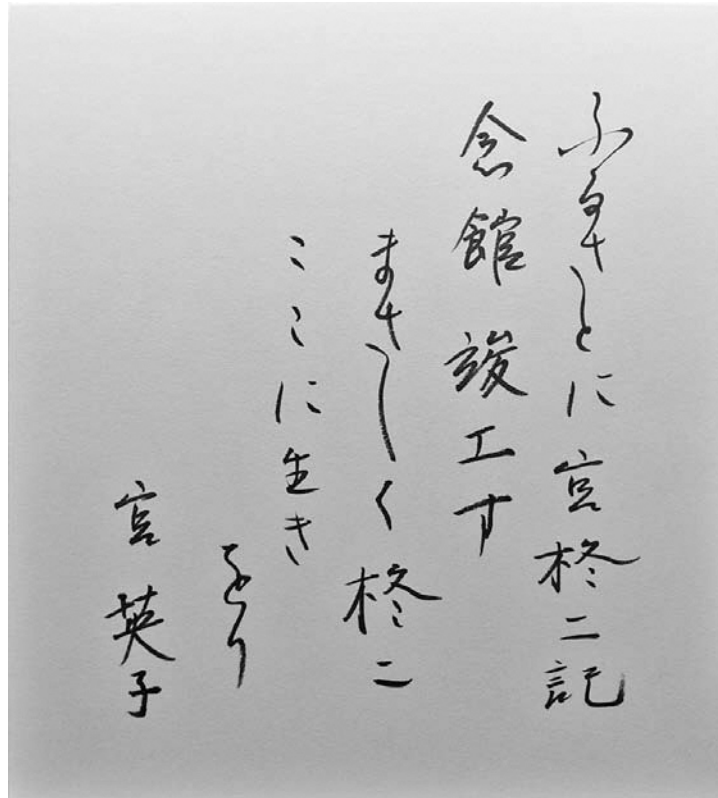


9月7日～9月23日、当館エントランスで坂西徹朗版画展を開催しました。

今回の版画展は、「ぜんぶ駒ヶ岳」と題し、堀之内在住の坂西徹朗さんの駒ヶ岳に関する版画作品を展示しました。

坂西さんの描く山々の力強さが印象的でした。

宮英子 色紙
(第一展示室展示中)



宮柁二記念館収蔵資料紹介 No51

宮柁二記念館開館の際に、宮英子さんから記念館に寄せられた色紙です。平成4年11月23日、堀之内公民館などで宮柁二記念館開館記念式典、祝賀会が行われました。当日出席したコスモス歌人は祝賀会の席で、開館を祝うと共にこれをよろこんだ短歌を色紙に残しています。

短歌セミナー講演会 を開催します

宮柁二記念館では、令和二年一月十九日(日)に短歌セミナー講演会を開催します。歌人の奥村晃作先生から「日中戦争と宮柁二(『山西省』を中心に)」と題し、ご講演いただきます。奥村先生は、これまでにコスモス選者を務められたほか、第四回短歌大会では選者を務められております。ぜひこの機会に大勢の方から乗り越えたいと思います。



奥村晃作 氏

「友の会」からのお知らせ

宮柁二記念館では、会員を募集しております。年会費は1,000円です。

くわしいことは、宮柁二記念館にお問い合わせください。

宮柁二記念館だより 第51号

発行 2019. 12. 20

問合せ 宮柁二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>